

普及活動情勢報告

情勢報告（平成29年8月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

病害虫防除の徹底、研修生との交流 ～夏秋ピーマン部会現地検討会の開催～



意見交換会の様子

7月25日、JA四万十夏秋ピーマン部会の現地検討会が開催され、農業者20名が参加しました。

7戸の露地、雨よけピーマンのほ場を巡回し、栽培管理方法などの情報交換を行いました。

普及所は、病害防除のポイントを説明し、昨年多発生した斑点病などの防除の徹底を図りました。今回、担い手育成センターの研修生6名が参加し、農家との交流も深めました。また、部会長は研修生に農家での作業体験も行うよう勧めていました。

今後も、個別巡回により病害虫防除の指導を行うとともに、担い手育成センターとの連携を進めていきます。

集落営農組織のステップアップ ～高南地域集落営農組織代表者連絡会の開催～



齋藤氏による槻之屋ヒーリングの取組みの説明

7月21日、高南地域営農協議会が集落営農組織代表者連絡会を開催し、集落営農組織の代表者など44名（25組織）が参加しました。

普及所は、本県や四万十町の集落営農組織の現状や、こうち型集落営農組織の取組みについて情報提供しました。

また、集落営農の担い手の育成の先進事例として島根県の（農）槻之屋ヒーリングの代表である齋藤隆文さんを講師として招き、法人の取組みや活動について講演してもらいました。

参加者からは、「どのように若い担い手を確保したか？」「鳥獣害対策は取組んでいるか？」など活発な意見が出されました。

普及所は今後も、先進事例調査や県外先進事例の情報を提供し、集落営農組織のステップアップを支援していきます。

女性農業者の学びの場 ～はちきん農業大学 第1回高南地区講座の開催～



地区講座の様子

7月28日、高南農業改良普及所で、はちきん農業大学第1回高南地区講座を開催しました。管内の女性農業者5名が出席し、四万十町の農業の現状と農業施策について学びました。その後、これから取組んでみたいこと、学びたいことについての情報交換を行い、出席者からは、「雇用就農したい人がいれば受入れたい」「女性農業者が農業機械を乗りこなす、主体となって取組んでいる事例を見てみたい」といった多くの意見が出されました。

普及所では、今後も女性農業者のニーズを反映させた講座を開催していきます。

ニラ産地のさらなる発展に向けて ～販売高10億円突破・ニラ導入40周年記念大会～



記念大会の様子

8月3日、四万十農協会館において、JA四万十ニラ部会販売高10億円突破・ニラ導入40周年記念大会が、生産者や取引市場、取引業者等の関係者など153名の参加のもと盛大に開催されました。

主催者あいさつ、来賓祝辞、営農アドバイザーへの感謝状贈呈、ニラ部会の取組み紹介、記念講演などが行われました。

その中で、関係機関が連携して、炭酸ガス施用技術や電照栽培、点滴チューブかん水等の先進技術の導入を推進してきたことが、収量アップにつながった要因の一つであることが紹介されました。

普及所は、今後も農家の収量及び所得向上に向けて、関係機関と連携して支援していきます。

新規就農者の確保に向けて ～産地提案型農業体験ツアー in 四万十町の開催～



はじめてのそぐり体験

8月5日から6日にニラ、ショウガの農業体験ツアーを開催し、県内外から6名の参加がありました。5日は担い手育成センターで新規就農者や生産部会の代表、関係機関との意見交換会、就農相談会を、6日は現地でニラのそぐり体験、ショウガのほ場を視察しました。

普及所はツアーの企画や生産者や関係機関との調整を図りながら準備を進めてきました。

参加者からは「四万十町も就農地の一つとして考えたい」「農地の確保が課題」「農家の生活やパートナーからの目線での話も聞きたかった」など貴重な意見をいただきました。

今後の就農支援に生かし、関係機関と取組んでいきます。

充実した良食味の米づくりに向けて ～JA四万十エコ栽培米生産部会現地検討会の開催～



現地検討会の様子

8月9日に‘にこまる’のブランド化に取り組むJA四万十エコ栽培米生産部会の現地検討会が開催され、生産者10名が参加しました。

普及所とJAが、ほ場ごとに止葉の葉色を計測し、玄米のタンパク質含有率を抑え、ハリのある粒にするための肥培管理を指導しました。

生産者からは「葉の色は薄くないか？肥料はもう十分か？」などの質問がありました。また、品質低下の原因となる斑点米カメムシの防除や、出穂・開花期の湛水管理について指導しました。

今後も現地検討会や個別巡回などにより、‘にこまる’のブランド化に向けた栽培指導に取り組んでいきます。

四万十の栗の生産性向上に向けて ～大正・十和地域の栗現地検討会の開催～



川平地区の栗園での講習会の様子

7月25、26日に十和地域の栗園2か所で現地検討会を開催し、生産者、JAなど関係者42名が参加しました。

四万十の栗再生プロジェクト協議会が招へいた栗技術指導者より、本人が管理している園で特選栗の生産に向けたせん定の効果や栗の生理生態についての講義説明が行われました。

普及所は、着穂状況についての調査データを示し、農家へのせん定効果の理解を図りました。

今後も四万十の栗の生産量拡大に向けて、栗技術指導者や関係機関と連携して支援していきます。